本書の使い方

❖ 章立て

本書は三つの章から構成されています。第 1 章と第 2 章はバートランド・ラッセルの作品、第 3 章はサマセット・モームを含めた他の 20 世紀の作家の英文を中心に構成しています。

❖ 各講の構成

各講の冒頭には、**「構造・読解のポイント」**として、読む際に注意したい英文の構造や内容理解のポイントとなる部分を、問いかけの形で記してあります。英文を通読する際に、これらの点を意識して問いの答えを考えつつ読んでいただければ、英文の構造や内容についての理解が深まります。

各講の英文の後には、それぞれ**「味読のポイント」**として、その講で取り上げた英文の趣旨についてのポイントとなる部分をあげてあります。英文に触れる前のヒントとしてご利用いただいてもいいのですが、できれば英文を読んだ後で、御自分の理解度を確認するための場所としていただくことをお薦めします。

英文の後には、**「語注」**として、本文で登場する語句の中から特に重要なものを中心に抜き出してあります。解説部分でも再度触れてあるものもありますが、不明なものやあやふやなものがあったら、辞書で訳語のみならず例文などを参照していただければと思います。

「構文研究」として、 一文単位の構造（主語や目的語などの文の要素や、修飾要素、節など）や、文法事項などを示してあります。

各講の最後には、**「文意」**という形で英文の全訳を掲載してあります。「構文研究」でも各文に訳を添えてありますが、説明の都合上、「構文研究」では英文の構造になるべく沿う形で、あえて直訳調の日本語を多く採用しており、「文意」の方では、ある程度こなれた日本語になるようにしています。

❖ 本書で用いた主な記号・略号

本書では解説の都合上や文の構造が視覚的にわかるように、次のような記号や略号を用いました。

・**S**（主語）、**V**（文の述語動詞）、**O**（目的語）、**C**（補語）
V は動詞だけでなく、助動詞＋動詞をセットで V と考えます。同様に、完了形や進行形、受動態も、have ＋過去分詞、be 動詞＋ -ing 形、be 動詞＋過去分詞などをセットで V とみなします。（本文では、SV という言い方をよく用いていますが、これは主語と述語動詞のそろった文あるいは節のことを意味しています）
なお、これらを節や句の中で示す場合は、主文を構成する要素としての SVOC と区別するため、S′V′O′C′ としてある場合があります。

・**to *do*** to 不定詞：*do* は動詞の原形がくることを示す。

・***doing*** 動詞の -ing 形：動詞名詞または現在分詞、あるいは分詞構文。

・**p.p.** 過去分詞

・∧ 省略部分があることを示す。省略された語句はその直後に（ ）内に斜体字で示してある。

・*ϕ* 関係代名詞が省略されていることを示す。

・● 関係代名詞節の中で名詞の欠落している箇所を示す。

・▲ 情報構造による語順転倒で名詞の欠落があるように見える箇所を示す

文が長い場合、文法的・意味的な切れ目がわかりにくくなる場合がありますが、適宜、以下のような括弧と下線により、視覚的にわかるようにしてあります。

・｛ ｝ 副詞要素（副詞句、副詞節）の挿入部分で、コンマで区切られていない場合など、特に見分けにくいものを示す

・［ ］ 関係詞節を括って示す（なお、誤解のない限り、関係代名詞節、関係副詞節は関係詞節と略します）

・**[ ]** 分詞（現在分詞、過去分詞）による後置修飾の部分を示す

・〈 〉 wh 節や that 節などの名詞節のうち特にとらえにくいものを示す

・＿＿（二重下線） 二重下線：関係詞とその先行詞をセットで示す

・～～（波下線） 波下線：同格の that 節が続く名詞